

港区立御成門小学校
令和4年度 授業改善推進プラン

1 課題

国語	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙が少なく、読みや書きといった基礎的な力の個人差が大きい。 ・聞こうとする意識は定着してきたが、話を最後まで聞いたり、話の内容を正しく聞き取ったりすることに課題がある。 ・語彙が少なく、読み書きといった基礎的な力の個人差は大きい。そのため、自分の思いを作文で表現することが苦手である。 ・スピーチする力が乏しい。話す・聞く観点を示し、経験を積んでいく必要がある。 ・漢字の定着度が低い。 ・読み手に伝わりやすいように表現を工夫して文章を書くことが難しい。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み取ったことと社会的事象を結び付けて考えることに課題がある。 ・学習した内容について、自分自身の生活に関連付けて考える力が乏しい。 ・47都道府県の名称と位置の理解について習熟が必要。 ・資料を比較したり関連させたりしながら読み取ることが難しい。 ・読み取ったことをもとに、課題について自分の考えをもつことが難しい児童が見られる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・数の感覚や言語能力に個人差が大きく、計算の正確さや問題の把握に課題を抱える児童もいる。 ・数量の感覚や言語能力に個人の経験の差が大きい。計算は得意としているが、題意を正しく捉えることができない児童がいる。 ・問題文と図を結び付けて考えることが難しい。 ・単純な計算問題等は意欲的だが、手順の多い問題や既習事項を応用させた文章題などの時間のかかるものには消極的になる。 ・道具を用いて正しく作図することに苦手がある。 ・学習中の単元については計算や作図などの技能が身につくが、時間がたつと忘れてしまう。 ・既習事項を根拠に新しい考え方を導くことが難しい。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験後の考察において、何を書き表しているのかを理解していない。(例：風のはたらきで車の進む距離を考えているのに、速さのことを書く) ・予想の基となる理由について、身の回りの事象や生活経験をもとにして考えることが難しい。 ・実験の結果としての事実と考察を区別して考えることに課題がある。 ・道具を正しく使うことや結果を正しく記録することに苦手がある。 ・実験、観察計画を立てるにあたり、自力で計画を立てられない児童がいるので、段階を踏んで計画を立てられるようにしたい。 ・実験結果についての考察が端的になりすぎて、思考を深めたり広げたりすることができていない。

2 各教科の具体的な授業改善

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・話す力・聞く力 (相手の話を最後まで聞き、自分の考えを形成したり伝えたりする) ・言語に関する知識・技能 (語彙量の増加・既習漢字を正しく書く) 	<ul style="list-style-type: none"> ・話すときの話型や聞くとときの観点を提示し、話題の中心を明確にして伝え合いができるようにする。 ・ペアや少人数グループでの学習やスピーチを繰り返し行い、話し方や聞き方の基本の徹底を図る。 ・辞書や「言葉のたからばこ」「漢字の広場」等の教材を活用し、言葉集めや既習漢字を使った短文を書く機会を増やす。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの学年も情報や年表の読み取りに課題が見られるので、日頃の授業から、様々な資料を提示し、それを関連づけて読み取るような場を作るようにする。 ・社会的事象について、複数の資料を関連付けながら把握するだけでなく、そこから自分で考察するという習慣を身に付ける。また、自分の生活に結び付けるような資料を出したり、単元のまとめとして、自分の生活と結び付けて考えたりする機会を設け、書かせるようにする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・思考、表現、判断力 ・基礎的な知識・技術の定着 ・量感を養う 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを分かりやすく説明する方法(文、式、図、グラフ、表)について教師が提示したり、児童が相互に考えを交流したりする機会を設ける。 ・週1回の算数タイムにて、東京ベーシックドリルなどに取り組みせ、基礎的な計算技術を身に付けさせる。 ・かさや長さ、面積などの学習単元では、実物を見せたり、実際にはかったり、触ったりする活動(算数的活動)を増やし、感覚を育てながら理解を深められるようにする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の見方・考え方を働かせた問題解決の力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・「考察」ではどのようなことを書くことができればよいかを指導する。また書き方シート等をノートに貼らせ、困ったときはそのページを参考にさせる。 ・児童同士の考えを積極的に交流させるために、付箋紙や名前マグネットを用いて自分や友達の考えを視覚化させる。 ・実験や観察の計画を立てるにあたり、ノートにまとめることを指導する。(必要な実験器具、手順、そろえる条件、見通し)

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々や社会、自然を自分との関わりで捉え、体験活動等を通して、自分自身や自分の生活について考えたり、表現したりする力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見学前に「ひと・もの・こと」の見学の視点を指導する。 ・導入や活動の場を工夫し、児童の思考に沿った学習計画を立てる。 ・気づいたことを友達と話したり、絵や文で表現したりする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・表したい音楽表現をするための技能。楽曲の特徴を見つけ、その良さを感じ取り、音楽のよさを味わって聴く力。協働して音楽をつくったり聴いたりする力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲との出会わせ方の工夫。 ・気付きを引き出す。(発問→発言→価値づけ) ・技能練習の工夫(繰り返し練習する部分の精選)。 ・意見交流の場の設定、工夫。

図工	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学びに取り組み、自他の良さに気づき認めあう力 ・身の回りの色形み気づき、生活をより豊かにしていく、ものの見方 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を与えるだけでなく児童が学びへの問をもって活動できるように導入を工夫する。 ・つくるだけの授業だけでなく、みる、視点を切り抜く、授業を年間の中でバランスよく取り入れる。

家庭	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な基礎的な理解、それらに係る技能 ・課題に対する取組を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の知識や技能と生活経験を結び付けながら、実践的・体験的な学習を行う。その中で、学習内容の定着を図るとともに、日常生活に生かし、発展させる。 ・観察や実習の結果を整理する際のレポート作成などを充実させることを通して、実践を評価したり、改善したりする力を身に付けさせる。

体育	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に主体的に取り組む態度 ・課題解決をする力 ・知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・主運動に取り組むために予備的な運動を設定し、スモールステップで取り組む。単元を通して一連の流れを設定し、主運動に主体的に取り組めるようにする。 ・互いに技のポイントやゲームに勝つための作戦を伝え合う場を設定する。 ・子供たちが技能のポイントに自分たちで気づき、高めていけるように指導する。(気づいていけるような運動や場の設定など)

国際	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業までに、アルファベットの大文字小文字が書けて読めるようになる。 ・卒業までに、音声で十分に慣れ親しんだ単語や文章などを活用してやり取りができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のゴールを設定し、NT と協力し、その為に有効な学習活動を計画する。 ・低学年では、音声と文字に親しんだり識別したりする活動を多く取り入れる。高学年からは、4線を使って正しく書けるように、ワークシートや指導を工夫する。 ・視覚情報や状況設定などをもとに、音声に慣れ親しませるとともに、繰り返し声に出して言い慣れさせる指導を行う。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的諸価値について理解する。 ・物事を多面的・多角的に考えることができる。 ・道徳的価値を基に、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割演技など、疑似体験的な表現活動を取り入れ、道徳的価値の意義などについて考えを深められるようにする。 ・自分の考えをもち、それを交流したり話し合い活動を積極的に取り入れたる中で、多様な感じ方や考え方に接し、物事を多角的に捉え、適切な表現ができるようにする。 ・その後の自分や友達の考えについて振り返る時間を確保する。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成しようとする態度 ・問題を解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動の在り方について「東京都特別活動授業プラン」の冊子を活用する。 ・縦割り班活動・クラブ活動・委員会活動など異学年交流の充実させる。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で取り組むべき課題を見いだす。 ・事象を関係付ける、多面的にみる、理由付ける、構造化するなどして情報を整理・分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク、インタビュー、ゲストティーチャーなど、実際に地域を見たり人と触れ合ったりする経験を重視する。 ・日常生活やこれまでの学習をもとに、児童が関心や疑問をもったことをもとにして課題を設定する。 ・学習内容や目的に合わせて、情報や考えを整理したり、情報を分析して課題を解決し新たな課題を見いだしたりする。